

# 企業ニュース カシオ計算機

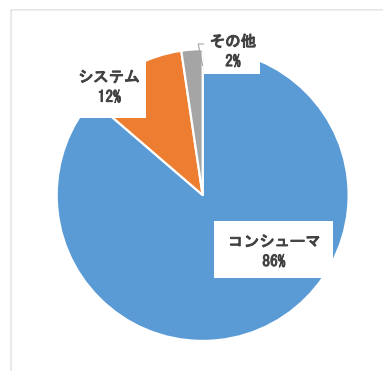
(東証1部：6952) <https://casio.jp/>

作成者：兵藤三郎

## 時計、電卓、電子辞書などの電子機器を手掛けるメーカー

1946年、樫尾製作所を創業。1957年に世界初の小型純電気式計算機を商品化し、樫尾計算機を設立。「カシオ」ブランドの浸透で、1960年に現在の商号・カタカナ表記に改めた。当初の社長は父親の樫尾 茂が務めたが、次男の俊雄を中心に四人の兄弟がそれぞれの得意分野を担当し発展させてきた（長男・忠雄が財務、次男・俊雄が開発、三男・和雄が営業、四男・幸雄が生産を担当）。その後、電子卓上計算機や電子楽器、電子辞書などを開発してきた。耐衝撃腕時計G-SHOCKは1983年に発売され、累計出荷数1億個を超えるロングセラー人気商品。デジタルカメラや携帯電話なども生産していたが、コモディティ化により採算が悪化し撤退した。現在は、時計、教育関連事業の成長拡大に加え、健康・ヘルスケア領域などでの新規事業創出に注力している。

◇19.3期売上高構成比



コンシューマ：時計、電卓、電子辞書など  
 システム：ハンディターミナル、レジスター、データプロジェクターなど  
 (出所) カシオ計算機資料よりCAM作成

## Gメタルの伸長が業績をけん引

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が661億円、前年同期比1%減、営業利益が75億円、同14%増。Gメタルの好調がけん引した時計事業が伸長、プロジェクターの減収などで苦戦したシステム事業を補った。時計事業ではGメタルの数量は同30%拡大、平均単価も6%上昇した。景気減速懸念があった中国でもECサイト中心に伸長（現地通貨ベース同36%増）した。プロジェクターの減収は教育ソリューションシリーズの浸透遅れによるものだが、6月単月は対前年プラス成長に転換するなど足元では回復の兆しがみられている。

20.3期連結業績の会社計画は、売上高が3,150億円、前期比6%増、営業利益が315億円、同4%増。中国での時計事業の伸長は、プロモーション効果など当社が取り組んできたマーケティング戦略が奏功したもので、米中貿易摩擦長期化などによる景気減速懸念は残るが、成長継続が見込めよう。第1四半期で苦戦した事業にも回復の兆しが見られ、通期業績計画の達成は可能であろう。新規事業の進捗などのニュースリリースにも期待したい。

## [株価動向・投資判断]

中国での独自マーケティング戦略の奏功を評価したい。本決算発表以降株価は上昇基調だが、中期的な成長を考慮すれば、依然上昇余地はあろう。押し目を狙いたい銘柄。

<6952 カシオ 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は日経予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	314,790 (▲2)	29,568 (▲3)	28,726 (9)	19,563 (6)	79.4	記50.00
19.3	298,161 (▲5)	30,262 (2)	29,894 (4)	22,135 (13)	89.9	45.00
20.3 予	315,000 (6)	31,500 (4)	31,000 (4)	22,500 (2)	92.8	45.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2019/10/7)	1,653 円
年初来高値 (高値日)	1,732 円 (19/10/2)
同 安値 (安値日)	1,165 円 (19/5/15)
予想 P E R (20.3 予)	17.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	840.1 円
P B R	1.97 倍
予想配当利回り	2.72 %
(1株当たり配当金年45.00円)	
R O E (19.3)	10.6 %
発行済み株式数	25,902 万株